

I-38

2022年4月18日

## 2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 (認可地縁団体) 雷塚自治会

代表者・役職名 氏名 代表者 須藤博

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

雷塚自治会 地域のネットワークでつながる「見守り・助け合い」

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

雷塚自治会は、昭和43年の創立以来54年の活動歴があり、自治会内に老人会も結成されています。最盛期は350世帯程の会員数でしたが、現在は180世帯を切るほどに減少しています。3年前に自治会館を建設して自治会を地縁団体として法人化し、行事中心の自治会から生活に資する自治会へと脱皮するべく、役員一同、模索を続けています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

日頃の自治会活動や老人会活動を通じて、高齢世帯や一人暮らし世帯の会員が著しく増加していることは把握していましたが、近年は高齢を理由に自治会を辞める会員も増えています。そこで、手助けの必要な世帯に対して、「見守り・助け合い」活動を行うことで、住みやすい地域を造ることを目的として、この助成プロジェクトに参加しました。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

見守り活動を円滑に進めるには、訪問や電話だけでなく、スマホを活用して連絡体制の円滑化を図るべしと考え、役員相互の連絡はもちろん、お年寄りとの連絡にもスマホを活用したネットワークを構築することを計画しました。まず活動の中心に据えるスマホ(パソコン)を用意し、役員相互のネットワークを構築した上で、お年寄りからの相談やSOSを、担当者がダイレクトに受けられる体制を目指しました。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

見守り活動は、当自治会にとって全く未経験な領分で、じっさいに組織を立ち上げるまでに予想外の時間がかかってしまいました。ボランティアについての初歩的な勉強から始め、先進事例を参考に運営要項を作成するのも大変な作業で、立ち上げまでに1年近くを要しました。スマホの本格運用はこれからですが、それでも、見守り組織が動き出す所までこぎ着けることが出来たのは、この公募助成を受けた事で後戻りが出来なくなったお陰でもあります。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

現在は、やっとプロジェクトが動き出した段階ですが、今後は、作成したチラシ等を活用して雷塚地域への広報活動を行い、活動の担い手と受け手の双方を発掘、増員し、地域に根付いた活動へと定着させて行く計画です。次年度は、お年寄りを対象にスマホ講習会を行い、より多くの人にスマホを持って貰うことで、困りごとが発生したら、すぐに対応できる体制を構築して参ります。

### 7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。

# 令和3年度 「ふれあい訪問活動」写真（雷塚自治会）



自治会&シニアクラブ役員会



ふれあい訪問団の集会



訪問活動の手順説明



老人宅の訪問風景